

農山漁村 体験研修 事例集



農山漁村振興交付金
(地域資源活用価値創出対策)

地域資源活用価値創出推進事業
(地域活性化型)のうち
農山漁村関わり創出事業
令和4～6年度実施

令和8年6月

農林水産省

農山漁村体験研修とは

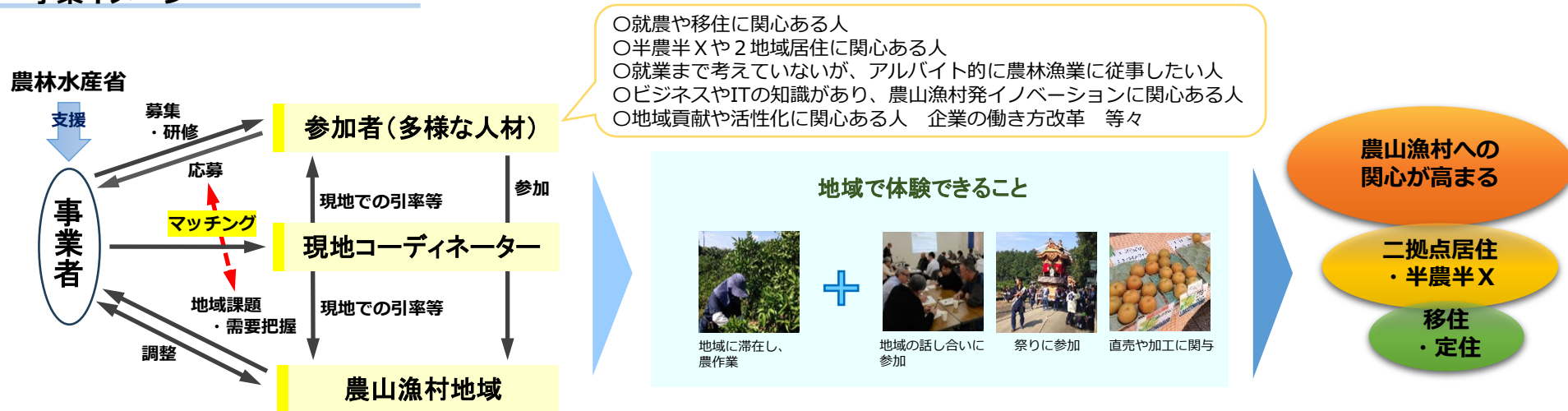
1 事業の概要

農山漁村においては、人口減少・高齢化、社会インフラの老朽化等に伴い、地域の活力や経済が低迷しています。一方、都市部を中心に、潜在的な就農希望者（すぐに就農や移住をするわけではないが関心がある者）が多く存在しており、こうした人々は、農林水産業の働き手としてだけでなく、専門的な知識や技術等を駆使して地域の活性化に貢献し、「農村関係人口」として活躍することが期待されます。

このため、本事業では、そうした潜在的な就農希望者等が、農林水産業や地域における様々な活動を体験する「農山漁村体験研修」の場を広げることで、「農山漁村を知ってもらう」機会を提供し、地域との「関わり」を創出することとしました。これにより、農山漁村に多様な形で関わりながら理解を深め、農山漁村に関心を持つ関係人口が増加するとともに、農山漁村で暮らす人々が生き生きと活躍できる環境の創出につながると考えています。

本事業での特色溢れる取組がモデルとなり、産官学金労言が連携して全国の農山漁村地域で「関わり」を創出する取組が展開されることを期待しています。

2 事業イメージ



■ 農山漁村体験研修事例集の活用方法

本事例集は、農山漁村振興交付金を活用して令和4年度から6年度にかけて事業を実施した7事業実施主体による体験研修の取組を掲載しています。取組の概要や事業のポイント等を整理しておりますので、農山漁村地域での新たなビジネス創出や外部人材との関わりづくりの参考にしてください。

【民間事業者の方へ】

地域（農業者や地域協議会等）や地方公共団体との連携体制、業務分担等の検討にご活用ください。

【地方公共団体・地域協議会等の農山漁村地域の方へ】

関係人口や移住の増加、担い手の確保又は地域課題解決手段の1つとしてご検討ください。

お問い合わせ

農村振興局農村政策部
都市農村交流課
電話:03-6744-1855(内線5419)

農山漁村体験研修事例

令和4～6年度実施

1

ハレノヒ株式会社 (令和4・5年度)

外部人材と地域住民が 地域課題の解決に向けた取組を推進

- 地域課題を解決できる人材を研修生として募集・派遣し、研修生の能力や知識等を活かして研修先地域の課題を解決
- 地域課題の解決をビジネスとして、課題解決に対して報酬を支払う仕組みを検討

2

日本航空株式会社 (令和4・5年度)

農山漁村への関係人口を創出する 持続可能なビジネスモデルを構築

- 都会の生活者に農山漁村地域での滞在型研修を体験してもらい、地域の魅力を感じてもらうことで移住への潜在需要の掘りおこしに成功
- 就農希望者向けに農業の「体験的学び」の機会を提供し、新規就農者を創出
- 都会に居住したまま地域に継続的に関わり地域課題解決に寄与する関係人口づくりと事業モデルの実証及び構築を実施

3

株式会社 大田原ツーリズム (令和4・5年度)

受入地域連携により柔軟な研修受入れと 地域力向上を目指した取組を展開

- 受入地域同士が連携することで、研修生の研修目的とスケジュールに合わせて柔軟な研修受入れを可能とし地域ごとに関わりたい人材を研修
- 地域にとっても単純な受入れではなく、募集から研修生毎の受入デザインを作るまでの一貫の過程を担うことで地域力向上を目指した取組を推進

4

一般社団法人 九州のムラ (令和4・5年度)

研修受入地域が継続した事業 が出来るような取組を推進

- 農家民宿などの農泊実践地域を対象に現地研修を実施し、継続した交流ができる環境づくりを目指す
- 地方で「暮らす」と「働く」をリアルに体験し、研修終了後に移住に繋がりのしやすい機会を提供

5

認定NPO法人 サービスgrant (令和4・5年度)

課題解決型地域交流プログラム “ふるさとプロボノ”を推進

- 農山漁村の産業や地域づくりを担う組織が持つ課題解決のために、地域外の企業人等がプロボノ（仕事の経験を活かした社会貢献活動）として関わるプロジェクト機会を通じ、関係人口の創出を目指す

6

農ライフアーズ株式会社 (令和4・5年度)

農的な起業・複業をはじめ ビジネスパーソンの活動を推進

- 主に都市部で働くビジネスパーソンを対象に「農業」だけでなく、半農半Xから派生させた【農X】という農的な暮らしを中心に置きながら、地域での農的な生業（起業・複業）をつくっていく「新しい生き方・働き方」を追求し、選択肢の多様化を通じた農的な起業・複業の推進を目指す

7

一般社団法人 日本ウェルビーイング推進協議会 (令和5・6年度)

自律人材の育成による 地域活性化へ繋がる取組を推進

- 都市の社会人が農山漁村での貢献作業（植林、梅の剪定、漁具倉庫掃除、収穫手伝い、魚捌きなど）を通じ、地域の暮らしの一部に入り込むことで、現場のリアルを肌で感じることで自律人材育成プログラムを提供
- 身体知を使って地域の価値に触れることで、確実な自己変容を促し、単なる交流を超え、持続的な応援者（関係人口）の創出を目指す

事業の特徴

- 地域課題を解決できる人材を研修生として募集・派遣し、研修生の能力や知識等を活かして研修先地域の課題を解決
- 地域課題の解決をビジネスとして、課題解決に対して報酬を支払う仕組みを検討

1. 体験研修の概要

研修の目的

- ・ 地域課題を理解し、解決策を考えること。
- ・ 伝統文化に触れる機会や祭事へ参加を通じて、住民と交流し、より深く地域を理解する。

研修ターゲット

- ・ 地域課題を解決できる外部人材
- ・ 就職氷河期世代

主な研修内容

- ・ 地域農林業の作業、加工、販売体験
- ・ 地域課題の解決方法を検討するワークショップ開催など

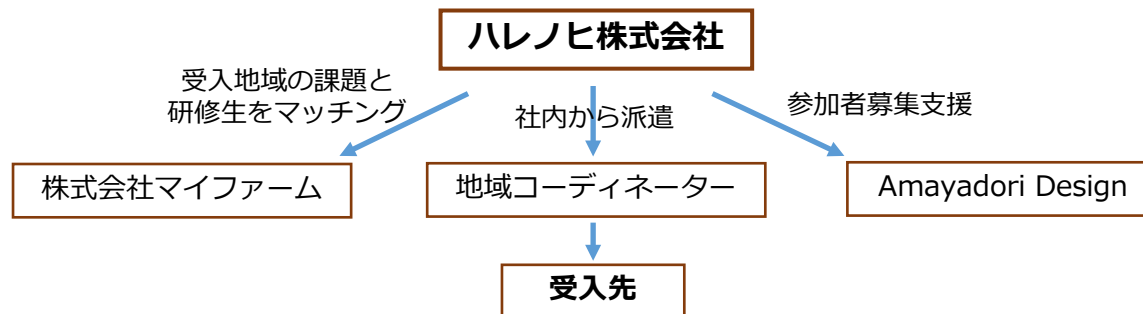


▲カボチャ収穫作業中の研修参加者



▲サトイモ収穫作業中の研修参加者

2. 実施体制図



- | | | | | |
|-------------------------------|----------------------------|------------------------------|--------------------------|-------------------------|
| ○北海道大空町
大地のMEGUM | ○福島県三島町
桐の里産業 | ○山梨県大月市
大槻DMO推進協議会 | ○長野県辰野町
辰野あさひ農村振興協議会 | ○奈良県吉野町
吉野製材工業協同組合 |
| ○熊本県南阿蘇村
久木野地域活性化協議会 | ○埼玉県熊谷市
農からはじまる暮らし推進協議会 | ○群馬県中之条町(旧六合村)
クニリズム推進協議会 | ○長野県高森町
ドラマチック高森運営協議会 | ○鹿児島県種子島
種子島アグリタス協議会 |
| ○北海道旭川市(東鷹栖地域)
東鷹栖地域活性化協議会 | ○沖縄県金武町
仲田氏、東恩納氏、金城氏 | ○沖縄県石垣市
荒木氏、中山氏、杉原氏、石垣氏 | | |

3. 実績・成果

実績

- **東京農業大学**が地域での研修プログラム構築の中心的な役割を担い、魅力あるプログラム構築に寄与した。
- 交流会を開催し、**研修参加者と地域住民の関係性を構築**した。そのうえで研修期間中に課題解決ワークショップを実施し、研修生の能力を活かした課題解決策を提案することができた。

研修参加者（総数）	215人
研修実施市町村数	13市町村

成果

- 一部の研修参加者は、研修地域でのビジネス展開、農作業の支援、祭事・イベントの企画などを通じて、**関係人口として事業終了後も地域との関係性を維持**している。
- 研修地域間で連携する事例も見られ、**共通する地域課題を持つ2地域**（北海道大空町と鹿児島県種子島）が**連携**し、「労働力確保体制強化事業（農林水産省）」の活用を念頭に準備を進めている。

体験研修地域への移住者	1人	体験研修地域との関係人口	25人
新規就農者等	0人	自走プロジェクト数	4プロジェクト

キーポイント

- 研修参加者とは研修地域決定前に面談を行い、**研修参加者が持つスキルと地域課題のミスマッチが発生しない**よう努めた。
- 受入地域の**自治体も本事業に関与**することで、地域の農林業の課題や解決策を共有できたことが施策への展開や自走化につながった。



▲ワークショップ研修の様子

研修参加者の声

種子島の魅力に気づくことができた。
都内に住んでいると見えない農家の方々の苦勞を体験することで、食材に対してありがたさを感じた。
(神奈川県・30代・男性)

4. 交付金終了後の状況・今後の展望

- 研修参加者自ら農業体験や学校教育、引きこもり対象の農業体験事業を実施・企画している。（企画段階3計画、実施済2計画）
- **国の事業を活用し資金を確保**しつつ、地域課題解決に取り組むプロジェクトも計画されている。（「労働力確保体制強化業」、「農泊事業」など）
- 研修参加者が企画する農業研修や課題解決プロジェクトの**サポート体制構築**を検討中。

事業の特徴

- 都会の生活者に農山漁村地域での滞在型研修を体験してもらい、地域の魅力を感じてもらうことで移住への潜在需要の掘りおこしに成功
- 就農希望者向けに農業の「体験的学び」の機会を提供し、新規就農者を創出
- 都会に居住したまま地域に継続的に関わり地域課題解決に寄与する関係人口づくりと事業モデルの実証及び構築を実施

1. 体験研修の概要

研修の目的

- ・2週間の地域体験研修を行い、地域生活を通して地域の魅力を感じる研修事業のレビューから関係人口創出のスキーム、コンセプトを確定し、プラットフォーム及びwebサイトを構築する。

研修ターゲット

- ・地域とポジティブな関係を持ちたいと考える都会生活者
- ・移住/就農希望者、大学生、テレワーク可能な会社員 など

主な研修内容

- ・農林漁業実習 (有機農法、IoT/サステナブル/循環型高収益農業、島野菜/柑橘類の収穫など)
- ・地域産業実習 (酒蔵)、伝統工芸作業体験 (漆器)
- ・環境保全活動の実施 (ビーチクリーン)
- ・地元の人との交流 (郷土芸能鑑賞、交流会開催)
- ・生活課題解決の帮助 (高齢者宅の雪下ろしの手伝い等、地域課題解決に向けたグループワークと自治体への提言)

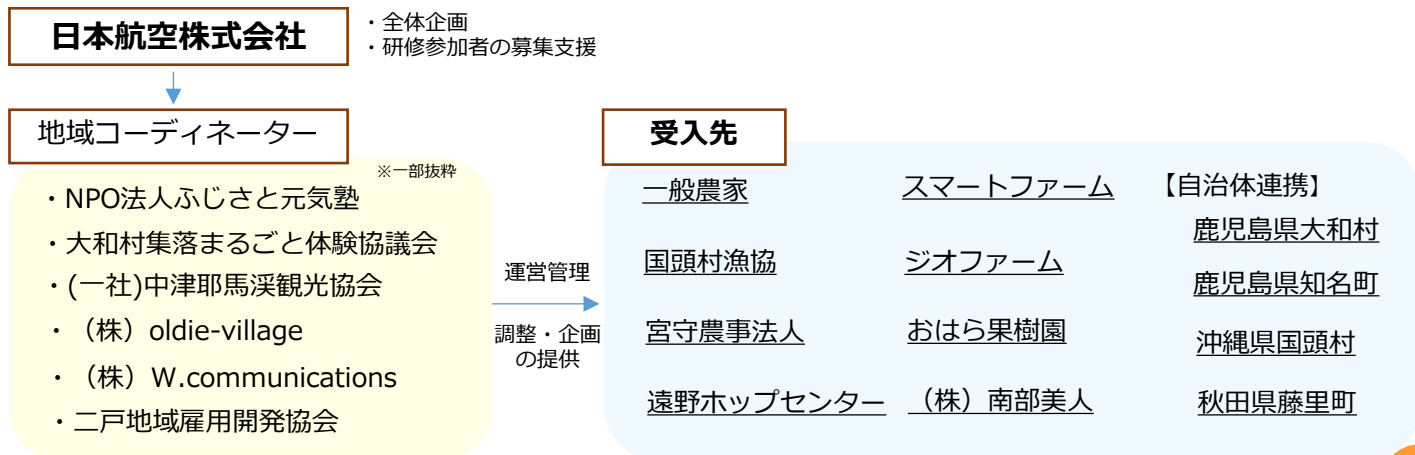


▲JALふるさとむすび



▲プラットフォーム

2. 実施体制図



3. 実績・成果

実績

- 「農業」・「地域活動」の体験視察及び産物の6次化や販売マーケティングなど、農業の現状、リアルな課題、「食」の重要性を理解してもらい、地域課題解決型ワークショップでは課題解決のアイデア合計4件を自治体へ提案
- 持続的に関係人口を創出する自走型プラットフォーム「JALふるさとむすび」を構築

研修参加者（総数）	91人
研修実施市町村数	11市町村

成果

- 研修参加者の大学生が卒業後に藤里町に移住、現在就農に向けて準備中（田畑の土地、資金や取り組むべき農業について模索）
- 研修後もその地域の「人」との間で築いた関係性を頼り、農家の手伝いや大学のゼミ合宿などで再訪。2地域居住を開始した者、首都圏で開催される物産展の手伝いに継続して参加する者も存在

体験研修地域への移住者	5人	体験研修地域との関係人口	40人
新規就農者等	2人	2拠点居住	2人

キーポイント

- 地域行政、受入事業者、コーディネーター、移住経験者がそれぞれの得意分野で連携し、地域の魅力、県・市の移住・就農支援制度、移住や農業の現実を伝えることで、体験研修参加者が地域に対してより深い理解・関心を持つことができ、多くの関係人口創出につながった。



▲有機野菜の収穫作業を行っている研修参加者

研修参加者の声

研修で関わった農家の方との交流をこれからもずっと続けていきたい。また、農業の課題を解決するために一緒に考え、自分なりの地域への貢献の仕方を見つけていきたい。
（東京都・50代・男性）

交付金終了後の状況・今後の展望

- 令和6年5月末に関係人口創出を目的として地域と都会人材をマッチングするサービスを開始
- 利便性向上のためのHP機能拡充や利用者拡大のためのマーケティングを充実させ、地域課題解決の一助として移住、就農のためのポータルサイトとして社会的な成果をしっかりと生み出していく。

事業の特徴

- 受入地域同士が連携することで、研修生の研修目的とスケジュールに合わせた柔軟な研修受入れを可能とし、地域に関わりたいという想いを持つ人材と地域をマッチングさせた研修を実施
- 地域にとっても単純な受入れではなく、募集から研修生毎の受入デザインを作るまでの一貫の過程を担うことで地域力向上を目指した取組を推進

1. 体験研修の概要

研修の目的

- ・就職氷河期世代を含む多様な人材が農山漁村を知り、農山漁村の生活を体験することを通じて、農山漁村に関心を持つ多様な関係人口を創出し、ひいては将来的な農業・農村の新たな担い手の確保につなげていくためのきっかけをつくることを目的とし、地域外の人材の持続的な流入による農山漁村の活性化の取組を支援する。

研修ターゲット

- ・農村や地域ビジネスに興味ある方
- ・移住や定住を農村や地域で考えている方
- ・もともと地域に興味があり関わりたいと思っている方

主な研修内容

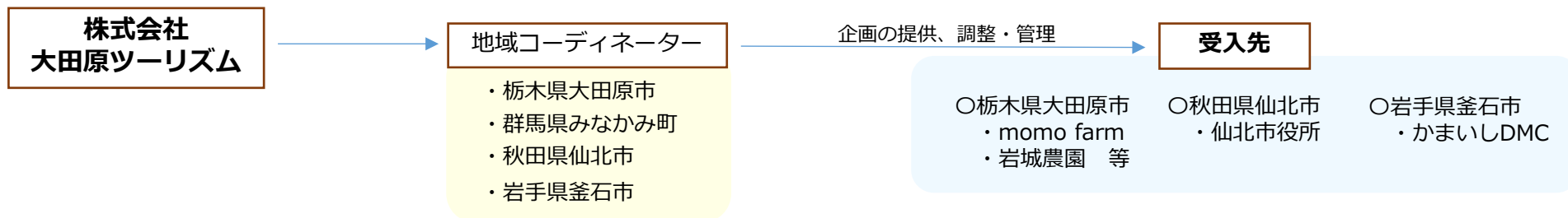
- ・各地域の農林漁業の1次産業、付随する地域ビジネス、それに関わるDMO¹や中間支援法人に関する個人毎に興味ある体験を提供

¹ 観光地域づくり法人。地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに、地域への誇りと愛着を醸成する地域経営の視点に立った観光地域づくりの司令塔として、多様な関係者と協働しながら、明確なコンセプトに基づいた観光地域づくりを実現するための戦略を策定し、着実に遂行する機能を備えた法人



▲各地域のコーディネーター

2. 実施体制図



3. 実績・成果

実績

- 全ての受入れ地域において、研修生の本業との調整を鑑み、あらかじめ地域で決めた日程ではなく、研修生ごとの来訪日程の**希望を聞き、その都度宿泊先を手配しながら行程を作るスタイル**で実施。日程の調整、希望する受け入れ事業者の調整、個別プログラムの作成のために特に時間を注いだことで、個別の深い体験提供と地域とのつながりが持てた。

研修参加者（総数）	206人
研修実施市町村数	4市町村

成果

- 研修先の農家での課題のハウスの設置の人手不足でサポート
- 農家民宿の村の風景を楽しんでくれるようなマップやツールを開発
- 研修生**複数名が研修後に農山漁村地域や地域の人に関わるビジネスで創業**
- 研修後に**自らが居住する地域で農泊や地域活性の協議会等において活躍**
- **大手企業等の商品開発に研修先の地域資源**を活用

体験研修地域への移住者	6人	体験研修地域との関係人口	199人
新規就農者等	2人	研修生総受入数	206人

キーポイント

- 受入れ地域の連携により、個別の受入れが柔軟に対応でき、参加者の総数も多いなかで、満足感や、その後の関わりも十分に出来上がった研修の提供ができた。受入れ地域にとってもノウハウの向上ができた。



▲意見交換の様子

研修参加者の声

体験させていただいたプログラムはどれも非常に魅力的なものばかりで非常にいい経験になりました。
（東京都・20代・男性）

4. 交付金終了後の状況・今後の展望

- 各地域は、人材交流、研修プログラムの開発、体験のアクティビティの開発が進んだ。今後とも今回の研修手法を活かして、各地域での研修構築をしていく計画。
- テーマ性のある委託事業を各地域に受託してもらい地域を育てることも重要。

事業の特徴

- 農家民宿などの**農泊実践地域を対象に現地研修を実施**し、継続した交流が出来る環境づくりを目指す
- 地方で「暮らす」と「働く」をリアルに体験し、研修終了後に**移住に繋がりやすい機会を提供**

1. 体験研修の概要

研修の目的

- ・地方における一次産業の労働者不足・担い手不足解消のため就労型研修を行い、地方移住への関心を高めること。
- ・地方での起業や生業づくりの実践現場で研修することで、2拠点居住やマルチワークなどの多様な関わり方を知ってもらうこと。

研修ターゲット

- ・都市部在住者で主に就職氷河期世代
- ・地方への移住（又は2拠点居住）に関心を持っている方

主な研修内容

- ・一次産業での現場研修
- ・移住者、地域おこし協力隊、新規就農者らとの交流や取組み現場視察

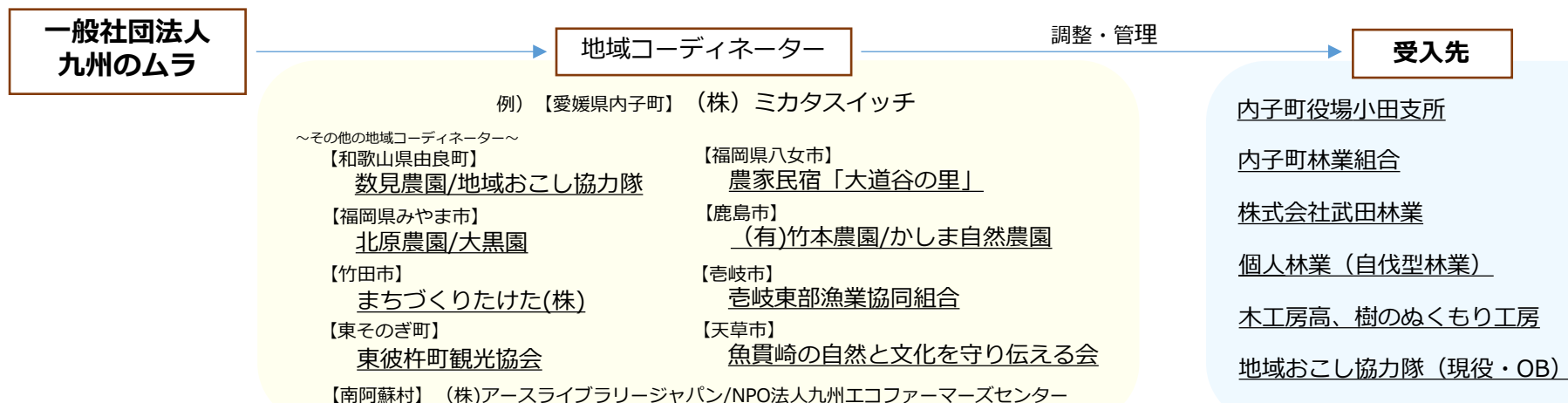


▲みかんの収穫作業の様子



▲キウイ収穫の作業を行っている研修参加者

2. 実施体制図



3. 実績・成果

実績

- 参加した研修生は**現地研修毎のニーズに合わせた研修内容**に取り組んだ。例えば、壱岐市では研修受入先である漁協組合が新たに人材を募集していることから、将来的に漁協組合で雇用されることを前提とした就業体験を行った。また由良町、南阿蘇村では地域おこし協力隊の募集も兼ねた現地研修を実施した。

研修参加者 (総数)	88人
研修実施市町村数	10市町村

成果

- 研修後に研修地へ移住した参加者は7名。うち研修受入先に雇用された方は、内子町2名、みやま市1名、壱岐市2名、南阿蘇村1名の5名である。また、現地で滞在した農家民宿家庭が空き家を斡旋し2名が移住したケースや、**体験研修をきっかけに研修地の近隣やUターンで地元へ移住**したケースが起こった。
- 1次産業に関心を持った人材を惹きつける体験プログラムを構築**したことで3名の新規就農(漁業)者が誕生した。研修生のうち29名が研修終了後も農作業やイベントを手伝うなど研修地域との関係性を維持している。



体験研修地域への移住者	7人	体験研修地域との関係人口	29人
新規就農者等	3人	令和6年度研修実施地域	2地域

キーポイント

- 各地域のパートナーとして**農泊実践者**に関わっていただいたことで、長期滞在先を確保しつつ、**リアルな地域の暮らしを実感**できた。また、**活躍している農泊実践者は地域での顔も広く、研修後も移住希望者に対して住居、仕事などの相談窓口となる**など、移住や移住先での定着に大きく貢献した。

研修参加者の声

山が放置されていることに
関心があり、林業に関わり
たいと思っています。今回学
んだこと地元でフィードバック
したり竹田市ともつながりを
持ち続けたいと思います。
(熊本県・30代・男性)



▲有機野菜の収穫作業を行っている研修参加者

4. 交付金終了後の状況・今後の展望

- 自治体との連携については、今年度は宮崎県木城町にて短期間のお試し滞在企画を弊社主導にて実施。**来年度以降定期的に開催予定**。西米良村でも来年度同様に計画。
- 専門学校連携については、福岡市内の福岡ECO海洋動物専門学校が今年度1週間のムラ暮らしインターンを阿蘇地域で実施。来年度以降も継続予定。

事業の特徴

○農山漁村の産業や地域づくりを担う組織が持つ課題解決のために、地域外の企業人等がプロボノ（仕事の経験を活かした社会貢献活動）として関わるプロジェクト機会を通じ、関係人口の創出を目指す



▲家族も関係人口に

1. 体験研修の概要

研修の目的

- ・農山漁村への就業や移住・定住への関心を高める関わりの創出
- ・地域コミュニティの課題解決
- ・外部人材の受け入れに必要なノウハウ移転を通じた「地域内研修コーディネーター」の育成

研修ターゲット

- ・主に都市圏のビジネスパーソン、フリーランスなど
- ・中間支援組織、行政担当者、観光協会などのコーディネーター

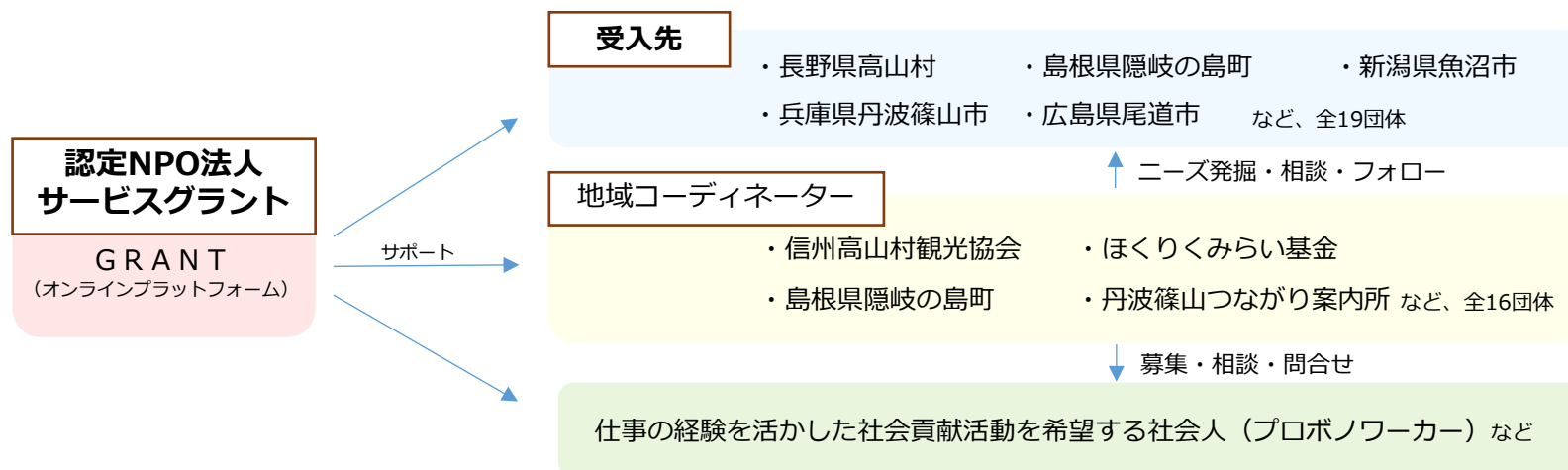
主な研修内容

- ・各地域の農林水産業に関わる「しごと体験」と、地域で活躍する団体の運営上の課題解決に取り組む「プロボノ（仕事の経験をいかした社会貢献活動）」を組み合わせた「プロジェクト型研修」を実施

2. 実施体制図



▲作成した成果物



3. 実績・成果

実績

- 19地域23団体と連携し、32件のプロジェクト型研修を実施。プロボノ参加者による業務改善、マーケティング調査、情報発信支援など、**地域外の手を課題解決に繋げる具体的な協働実績**が生まれた。
- 行政、中間支援組織など16団体がコーディネーターに登録。**プロボノ人材と地域との結節点となる基盤構築**に繋がった。

研修参加者（総数）	66人
研修実施市町村数	19市町村

成果

- **地域課題の共有を入口に、オンラインと現地訪問を繰り返しながら共に解決を目指すプロセス**が、地域を超えて今後もいつでも相談できる関係人口を生み出し、その後のつながりを支えている。
- ウェブサイト、チラシなどの広報ツール、地域材の在庫管理の仕様設計、事業計画など提供された成果物によって、各課題の解決スピードが向上した。
- 子育て中のママチーム、同一企業の社員チーム等、**多様なスタイルによる関わり**にチャレンジした結果、キャリアの見つめ直し、本業への持ち帰りなど複数の有効性が確認できた。

体験研修地域との関係人口	66人	農山漁村への関心の高まり	92%
--------------	-----	--------------	-----

キーポイント

- 超高齢化社会の中で人的資源が絶対的に不足する**地域自らが課題やニーズを自由に発信し、外部の担い手とプロジェクト単位で課題解決を進められる自立的な仕組み**づくりの提供
- 地域の課題解決と意欲ある企業人などによる社会参加の両立など、複数の副次的効果が同時に見込めるプログラムを構築

研修参加者の声

培ったスキルで地域に恩返しをして、新たなふるさとを創出する活動
(東京都・40代・男性)



▲新潟県魚沼での農作業の様子

4. 交付金終了後の状況・今後の展望

- 交付金終了後も各地のコーディネーターによるプロジェクト創出が継続している。
- 県や市町村・中間支援組織が取り組む地域づくりの重点課題に、地域内外の新たな力を活かす施策として、“ふるさとプロボノ”をモデルとした支援策の導入検討が進んでいる。
- 企業の人材育成・組織開発施策として、地方創生をテーマに地域をフィールドとした課題解決型越境学習プログラム「**プロボノリーグ**」を運営し、**継続的に展開**している。

事業の特徴

○主に都市部で働くビジネスパーソンを対象に「農業」だけでなく、半農半Xから派生させた【農X】という、農的な暮らしを中心に置きながら、地域での農的な生業(起業・複業)をつくっていく「新しい生き方・働き方」の推進および、選択肢の多様化を通じた農的な起業・複業の推進を目指す

1. 体験研修の概要

研修の目的

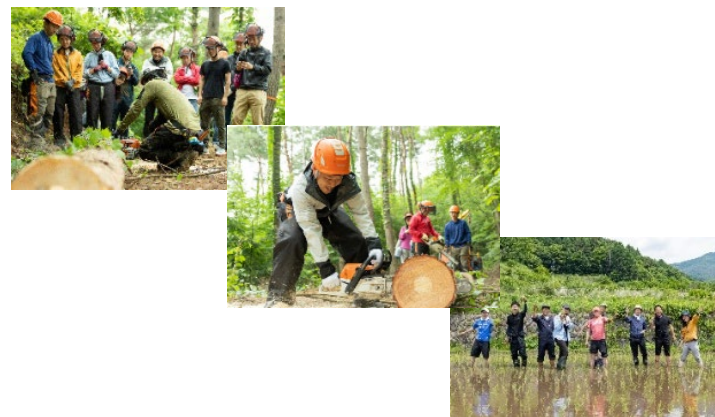
- ・農的な起業・複業人材の育成
- ・農に関わる関係人口～移住者創出

研修ターゲット

- ・都市部で働くビジネスパーソン

主な研修内容

- ① オリエンテーション (オンライン / 1時間半)
- ② 農的暮らしと商いのつくり方を学ぶ講座
 - 第1講座 未来型“農”マーケティング
 - 第2講座 農X事業コンセプトの立て方
 - 第3講座 革命的農ブランディング
 - 第4講座 小さな農家経営論
- ③ 自分らしい農Xプランをつくり動き出す研修
 - 2泊3日×4回 + 1泊2日×1回 (計14日間)

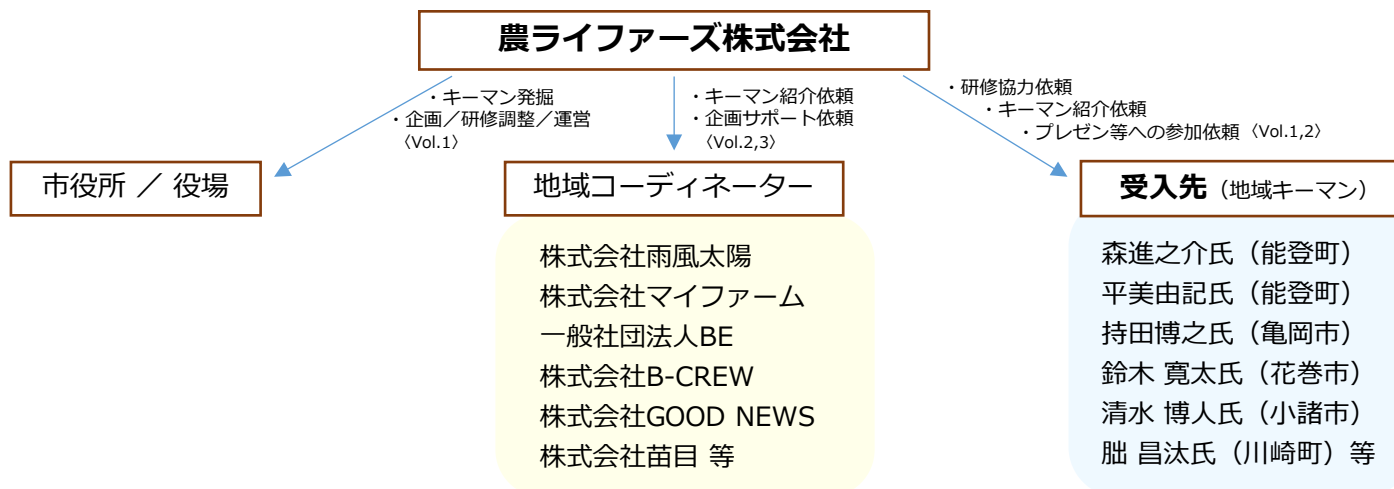


▲農業 / 林業の体験作業を行う研修参加者

2. 実施体制図



▲新規就農家の視察を行う研修参加者



3. 実績・成果

実績

- 農的暮らし・農的ビジネスをしている「地域キーマン」との交流や活動の視察・体験を通じて、農的な起業／複業の具体的なイメージが描けるプログラムを実施。主な対象者への集客は、**個別スカウト・メディア/SNS広告・オンライン説明会や事前の個別選考面談を実施**し、プログラム参加のミスマッチ防止、プログラムの質の向上に繋がった。

研修参加者（総数）	80人
研修実施市町村数	21市町村

成果

- **「農に関わる多様な選択肢」を見せることで、参加者自身がやりたい事業や生き方が明確になり**、地域での起業／複業、関係人口／移住定住に繋がりがやすかった。
- 大阪府豊能町へ移住し、新規就農をした20代女性は加工品販売、畑の学校、キッチンカーなど、就農1年目から農業だけでなく、「農X」事業を軸に活動をはじめている。
- 東京から香川県三豊市へ移住した50代男性は会社員を辞めて、三豊市初のクラフトビール醸造所を立ち上げた。

体験研修地域への移住者	6人	体験研修地域との関係人口	69人
新規就農者等	3人	企業・複業人数	16人
受入地域のキーマン発掘数		291人	

キーポイント

- 「地域コーディネーター」と連携した企画～運営を行ったことで、プログラムの質の向上、地域の農業者・移住者と受講生との関係性構築強化、関係人口促進に繋がった。
- **人と人との繋がりを丁寧にじっくりとすることで関係人口やその先の移住に繋がる**ことを認識した。

研修参加者の声



▲移住・起業した方の店舗を視察

地方での小商いの起こし方について学びたく参加しましたが、農作業体験がとっていましたが、農家さんの複業の多様さと、二次加工、飲食中心、宿泊など多彩な体験が出来ました。
(東京都・50代・会社員)

4. 交付金終了後の状況・今後の展望

- 本事業での取り組みを通じて、「長野県小諸市」からの委託事業として**【移住×農ライフ】を促進する【INASTA in 小諸市】プログラム**を令和6年度から実施することが決まった。
- 【地域のリーダー人材育成】に特化した完全伴走型のプログラム【農村起業塾】を開始。会社員のニーズが高く、更なる展開として自治体との連携を模索しながら進めている状況。

事業の特徴

- 都市の社会人が農山漁村での貢献作業（植林、梅の剪定、漁具倉庫そうじ、収穫手伝い、魚捌きなど）を通じ、地域の暮らしの一部に入り込むことで、現場のリアルを肌で感じることでできる自律人材育成プログラムを提供
- 身体知を使って地域の価値に触れることで、確実な自己変容を促し、単なる交流を超え、持続的な応援者（関係人口）の創出を目指す

1. 体験研修の概要

研修の目的

- ・農山漁村と都市部参加者双方のウェルビーイングをあげ、持続的なつながり（関係人口）が生まれる仕組みをつくる
- ・自律人材（関係人口・地域リーダー候補生）を創出し、地域活性へとつながる関係性をつくる

研修ターゲット

- ・都市部企業の社会人、個人事業主
- ・リーダーシップの強化やマネジメントを目指す人材
- ・地域で働きたい人

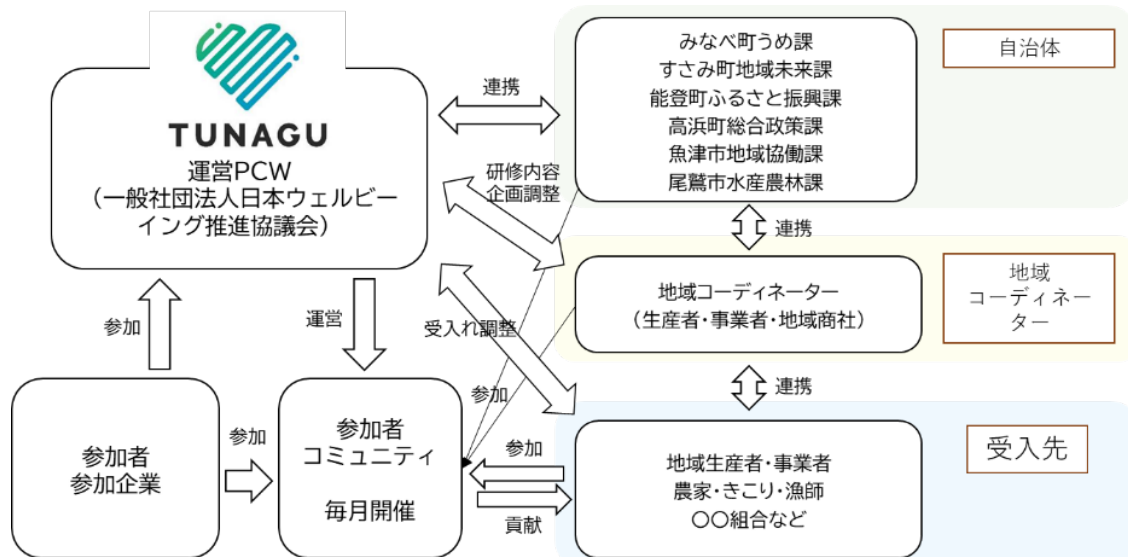
主な研修内容

- ①事前研修：3人の専門家の講座
マインドセット、地域と一次産業の可能性、起業等
- ②実地研修：3泊4日×2回+6泊7日×1回 計15日間
※世界農業遺産地域を含む、5県6市町の中から選択（農業・林業・漁業の産地・先進地）
～和歌山県みなべ町・すさみ町、石川県能登町、福井県高浜町、三重県尾鷲市、富山県魚津市～
- ③事後研修：3人の専門家の講座
キャリア形成、就農・副業、コミュニティ形成



▲ウバメガシ切り出し貢献作業

2. 実施体制図



▲研修を終えて、地域の方と能登の海をバックに

3. 実績・成果

実績

- 6地域と連携し、研修を22回（R5：10回、R6：12回）実施。研修生の90%が「満足」、**99%が「地域と関わりたい」というアンケート結果**となった。
- 2年間で**地域活性のアイデアが112個生まれ**、地域外の力を地域課題解決に繋げる具体的な共創プロジェクトが生まれている。
- 地域で一次産業の貢献作業を半日行い、自身の仕事を半日行う、一次作業ワーケーション®をプログラム化した『TUNAGU』が地方創生に貢献すると評価され、地方創生テレワークアワードを受賞した。



成果

- 地域の生産者等や自然からの気づきが、確実な自己変容となり、地域の課題を身体知として感じることで、**自身の役割を見つけ、より深い応援者（関係人口）につながった。**
- 研修後、和歌山県みなべ町、三重県尾鷲市、福井県高浜町では、就農や地域おこし協力隊として移住者を創出した。
- 研修生の約6割34人が、地域活性アイデアを実装すべく、地域へ再訪している。

みなべ：梅の木オーナーとNFT
能登：復興支援・田んぼオーナー
魚津：祭支援、アンバサダー

すさみ：漁師小屋再生お魚ハウス
高浜：海業と商品開発
尾鷲：一本ヒノキ、甘夏収穫ワーケーション

研修実施市町村数	6市町村	研修参加者（総数）	56人
----------	------	-----------	-----

研修地域への移住者	3人	研修地域との関係人口	34人
自走プロジェクト数	14プロジェクト	地域活性化アイデア	112件

キーポイント

- 参加者のほとんどが口にする3つのキーワード「**自己変容**」「**気づき**」「**つながり**」（真の自律人材に必要な要素）
- 体を使い**五感で得た感覚・感情・感性を内省すること**（＝身体知）が自己との対話を促すプログラムとなっている。
- 地域の**行政や住民の全面協力**により、地域との本質的なつながりが創り出せる。



研修参加者の声

地域とそこにいる人と深いつながりをつくるきっかけを、余すところなく提供してくれた

（福岡県・50代・男性）

“行かなきゃ”が“帰りたい”に。型にはまらない価値観の幅の広がりがあるTUNAGUによりキャリア観が大きく変わった

（神奈川県・20代・女性）

▲ワークショップ研修発表の様子

4. 交付金終了後の状況・今後の展望

- 企業研修をターゲットに、自律人材育成プログラムとして営業。
⇒6社からの受け入れを実現。今後も継続予定。
- 人材研修要素（1on1、アクティブコーチング、パーパスワークショップ）や上長への事前ヒアリング・フィードバックを追加するなど、**企業が確かな価値と認識できる工夫**を展開し、企業研修としての効果を確信。
⇒研修前後の写真から表情の変化を感じる、研修終了後の仕事の仕方やコミュニケーションから、次年度以降のリピートへつながる。
- 6つの自治体や他地域からの職員の受け入れを実施。
⇒**他の自治体職員との交流や実践ノウハウを聞く機会**となり、受入れ自治体からの評価へつながっている。